TEX ユーザの集い 2009　参加者アンケート報告書

TEX ユーザの集い 2009 実行委員会
http://oku.edu.mie-u.ac.jp/texconf09/

2009 年 9 月 10 日

1　はじめに

本報告書では、2009 年 8 月 29 日に開催された TEX ユーザの集い 2009 においておこなった、参加者の属性、TEX 環境、イベントの評価、今後の希望などについてのアンケート調査を集計、分析した結果を報告する。

まず、TEX ユーザの集い 2009 に参加していただいた皆様に厚くお礼申し上げる。そして、多くの方にアンケートにもご協力いただいた。TEX 周辺は、比較的歴史の古いオープンソースプロジェクトとして日本でも 20 年以上コミュニティによる開発や議論が継続しているが、ユーザ同士が比較的緩やかに繋がっているため、コミュニティを形成するユーザの属性や利用環境、コミュニティあるいは今回のような集いに望むことなどが明確になることが少なかったと考えられる。今回のアンケート結果から、日本の TEX および周辺ソフトウェアの開発者やコアユーザの特徴を明らかにして、さらなる発展のための資料となれば幸いである。

なお、本報告書では基本的にアンケート結果をもとにした報告、分析のみおこない、TEX ユーザの集いでの講演内容や、最新の動向などを加味した考察、展望はおこなわない。

TEX ユーザの集い 2009 集合写真

2　調査の概要

調査対象は、“TEX ユーザの集い 2009” の参加者 79 人であった。性別について今回は調査をおこなっていないが、回答者の大多数が男性であった。

調査票は SQS (Shared Questionnaire System) [*1] を用いて作成した。主な調査内容は、

- 参加者の属性
- 参加者の TEX 環境
- TEX ユーザの集いの評価
- 今後の集いについての希望

というものであった。以下、各節でそれぞれの調査結果について述べる。

3　参加者の属性に関する調査結果

TEX ユーザの集い参加者の年齢層、職業、TEX の利用歴について調査した。

3.1　参加者の年齢層

参加者の年齢について、

1. ～25 歳
2. ～35 歳
3. ～45 歳
4. ～55 歳
5. 55 歳～

という 5 項目から選択させた。その結果、26 歳から 35 歳までの層がもっとも多く、次に 36 歳から 45 歳までの層が多いという結果になった。年齢層の分布を表 1 と図 1 に示す。

表 1　参加者の年齢層

	～25 歳	～35 歳	～45 歳	～55 歳	55 歳～
人数	6	31	26	8	8
割合	7.6%	39.2%	32.9%	10.1%	10.1%

3.2　参加者の職業

参加者の職業について、

[*1] http://sqs.prof.cuc.ac.jp/

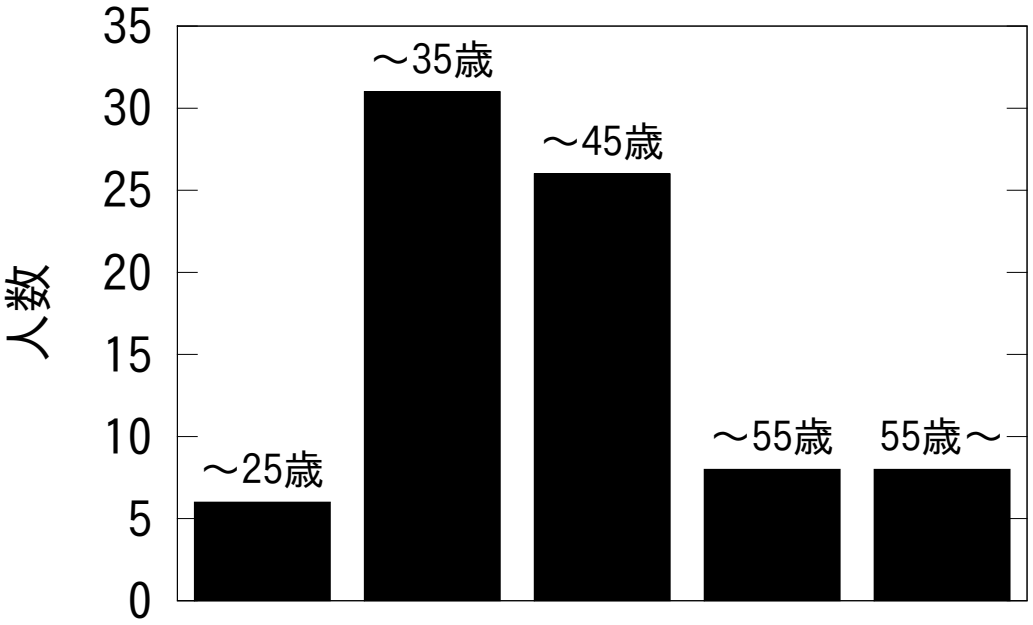

図 1　参加者の年齢層

1. 学生
2. 教育・公的機関の研究者・教員
3. 企業の研究者
4. 会社員 (出版・印刷)
5. 会社員 (その他)
6. 自営業 (出版・印刷)
7. 自営業 (その他)
8. その他

という 8 項目から選択させた。その結果、会社員 (出版・印刷) という回答がもっとも多く、次に教育・公的機関の研究者・教員という回答が多かった。会社員 (出版・印刷) という回答の中には、実際に TEX を用いて組版業務をおこなっている人と自分自身は TEX を使っていないという人が含まれているが、出版・印刷関連企業において TEX に興味を持ち、集いに参加する人が多いことがわかった。職業の分布を表 2 と図 2 に示す。

表 2　参加者の職業

	学生	教員	企業 研究者	会社員 出版	会社員 その他	自営業 出版	自営業 その他	その他
人数	7	27	4	30	6	1	1	3
割合	8.9%	34.2%	5.1%	38.0%	7.6%	1.3%	1.3%	3.8%

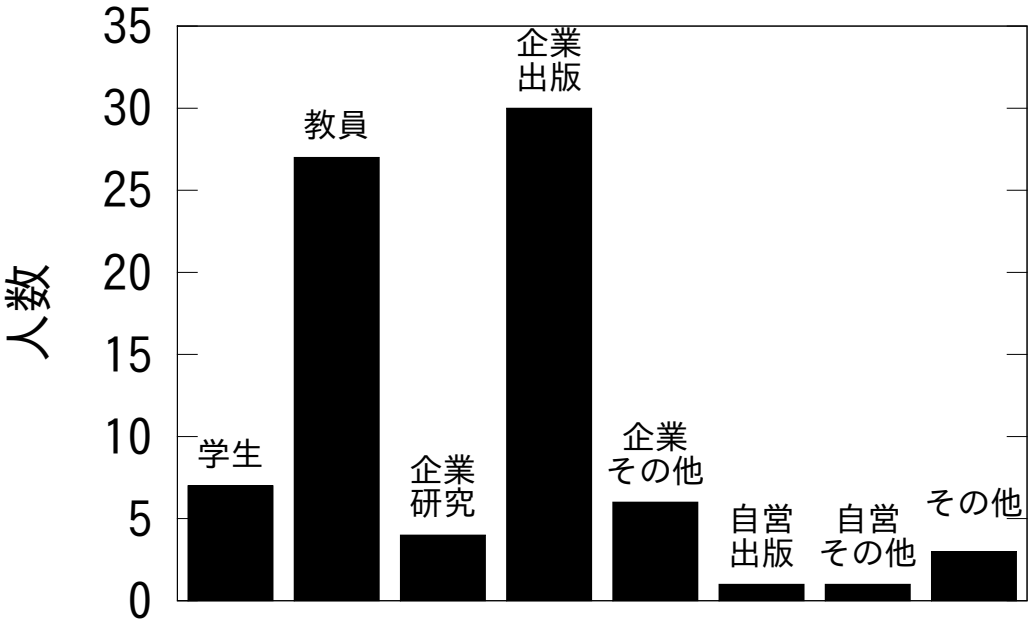

図 2　参加者の職業

3.3　参加者の TEX 利用歴

参加者の TEX 利用歴について、

1. ～1 年
2. ～3 年
3. ～5 年
4. ～10 年
5. ～15 年
6. 15 年～

という 6 項目から選択させた。その結果、15 年以上の利用歴があるユーザがもっとも多く、利用歴 10 年以上のユーザが約 80% を占めるという結果であった。また、利用歴 1 年未満の参加者はいなかった。なお、1 名は無回答であった。TEX 利用歴の分布を表 3 と図 3 に示す。

表 3　参加者の TEX 利用歴

	無回答	～1 年	～3 年	～5 年	～10 年	～15 年	15 年～
人数	1	0	3	12	20	15	28
割合	1.3%	0%	3.8%	15.2%	25.3%	19.0%	35.4%

参加者の属性に関する調査から、今回の集いに参加したのは主に 20 代後半から 45 歳前後の、大学・研究機関の研究者あるいは出版・印刷関連企業に勤める男性であり、TEX 利用歴が 10 年以上

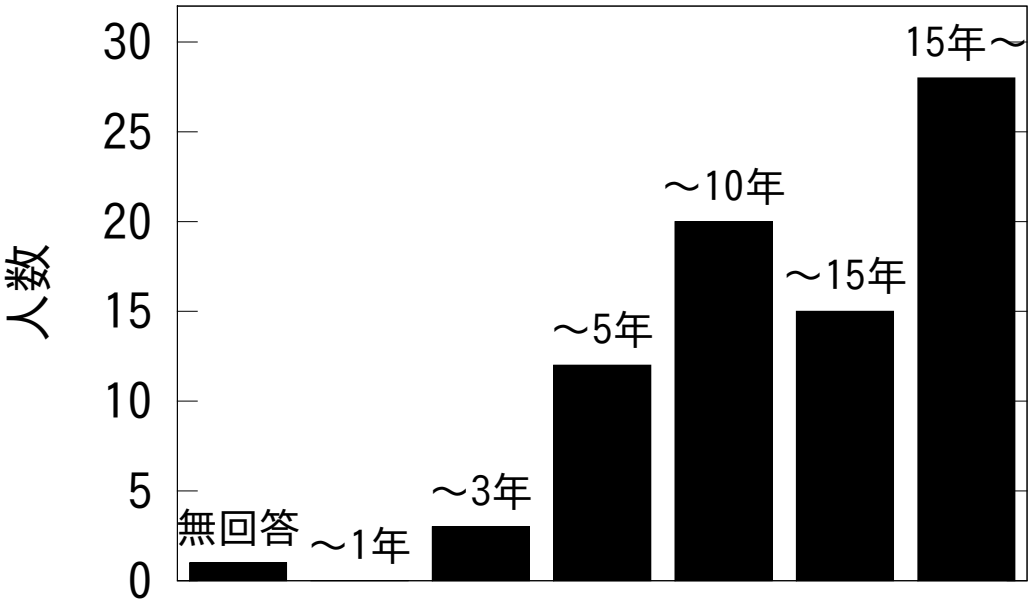

図 3　参加者の TEX 利用歴

ということがわかった。

次節では、そのような参加者が日常的に利用している TEX 環境について調査を行った結果を述べる。

4　参加者の TEX 環境に関する調査結果

集い参加者が、日常的にどのようなコンピュータ環境で TEX を利用しているかということについて調査した。調査項目は、TEX の用途、コンピュータの OS、TEX ディストリビューション、エディタ / 統合環境であった。

4.1　TEX の用途

参加者が日常どのような用途で TEX を利用しているか、

1. 論文･レポート･レジュメ
2. 書籍 (科学技術分野)
3. 書籍 (人文社会分野)
4. 書籍 (文芸・創作分野)
5. 業務上の提出・回覧書類
6. 帳票
7. 手紙・はがき
8. プレゼンスライド
9. ポスター
10. 新聞・広告
11. 学会誌・論文集 (編集・制作)
12. 商業印刷・出版
13. その他

という 13 項目から当てはまるものを複数選択させた。その結果、論文・レポート・レジュメという回答がもっとも多く、書籍 (科学技術分野) や学会誌・論文集という回答が続いた。また、新聞・広告を除いたすべての項目が複数人に選択されており、さまざまな文書の作成に TEX が利用されていることがわかった。なお、その他として、「年賀状」「起想録・メモ」といった回答があった。調査の結果を表 4 と図 4 に示す。

表 4　TEX の用途 (複数選択可能なため数値は人数ではなく回答数)

	論文等	書籍 (科学技術)	書籍 (人文社会)	書籍 (文芸創作)	業務 書類	帳票	手紙 はがき
回答数	44	23	6	4	18	2	13
割合	25.6%	13.4%	3.5%	2.3%	10.5%	1.7%	7.6%

	スライド	ポスター	新聞 広告	学会誌 論文集	商業 印刷	その他	計
回答数	17	4	0	19	19	3	172
割合	9.9%	2.3%	0%	11.0%	11.0%	1.7%	100%

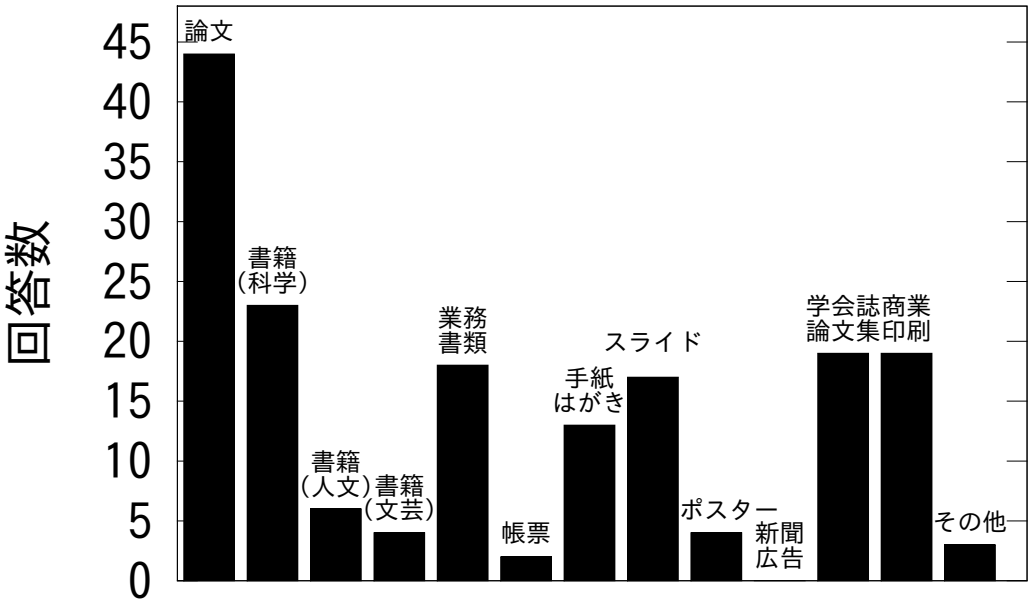

図 4　TEX の用途 (複数選択可能なため数値は人数ではなく回答数)

4.2　コンピュータの OS

参加者が TEX を利用するコンピュータの OS について、

1. Windows
2. Mac OS
3. Linux
4. BSD 系
5. その他

という 5 項目から選択させた。その結果、Windows という回答がもっとも多く、次に Linux、Mac OS と続いた。また、その他として「Solaris」という回答があった。なお、1 名は無回答であった。調査の結果を表 5 と図 5 に示す。

表 5　TEX を利用するコンピュータの OS

	無回答	Windows	Mac OS	Linux	BSD 系	その他
人数	1	44	12	18	3	1
割合	1.3%	55.7%	15.2%	22.8%	3.8%	1.3%

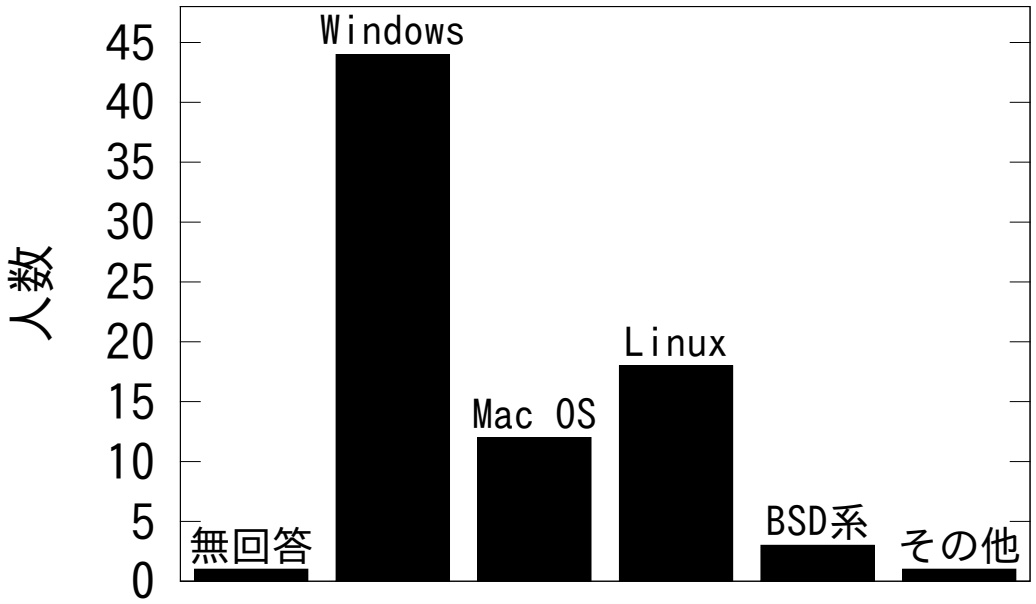

図 5　TEX を利用するコンピュータの OS

4.3 TEX ディストリビューション

参加者が利用している TEX ディストリビューション (およびインストーラ) について、

1. W32TEX[*2] (TEX インストーラ 3) [*3]
2. W32TEX(texinst200x.exe) [*4]
3. 小川版[*5]
4. ptetex3 / ptexlive [*6]
5. TEXLive / MikTEX など英語版
6. ソースから構築
7. わからない (OS 付属、書籍付録等)
8. その他

という 8 項目から選択させた。その結果、W32TEX(texinst200x.exe) という回答がもっとも多く、ほぼ同数が W32TEX(TEX インストーラ 3) と回答し、ptetex3 / ptexlive が続いた。また、その他として「自作」「(Mac, FreeBSD) ports」という回答があった。なお、1 名は無回答であった。調査の結果を表 6 と図 6 に示す。

表 6　利用している TEX ディストリビューション

	無回答	W32TEX (あべのり)[*7]	W32TEX (texinst)	小川版	ptetex3 ptexlive	TEXLive MikTEX (英語版)	ソース	わからない (OS 付属 付録等)	その他 (自作 ports 等)
人数	1	19	20	3	17	1	4	9	5
割合	1.3%	24.1%	25.3%	3.8%	21.5%	1.3%	5.1%	11.4%	6.3%

4.4 エディタ / 統合環境

日常的に TEX 文書を作成するためのテキストエディタ / 統合環境 (IDE) について、

[*2] 角藤亮氏による Windows 用ディストリビューション: http://w32tex.org/
[*3] 阿部紀行氏によるインストーラ: http://www.ms.u-tokyo.ac.jp/~abenori/mycreate/index.html
[*4] W32TEX 付属のコマンドラインインストーラ (x は年次)
[*5] 小川弘和氏による Mac OS X 用ディストリビューション: http://www2.kumagaku.ac.jp/teacher/herogw/
[*6] 土村展之氏による Unix 環境用ディストリビューション: http://tutimura.ath.cx/ptetex/, http://tutimura.ath.cx/ptexlive/
[*7] 紙幅の都合でこのように略記させていただく。

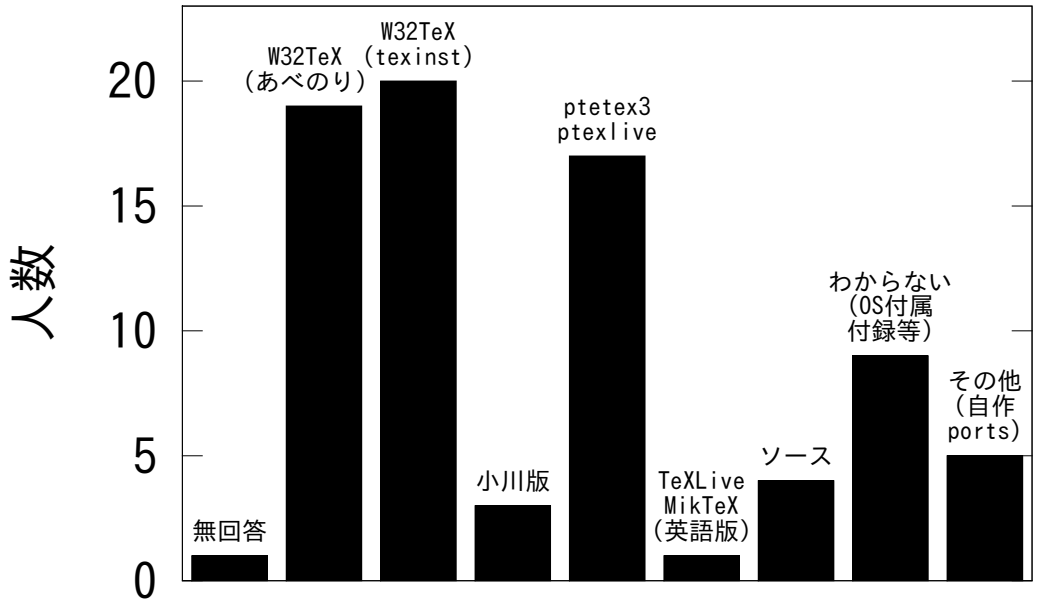

図 6　利用している TEX ディストリビューション

1. WinShell
2. 秀丸
3. xyzzy
4. GUI-Shell
5. Emacs 系
6. vi 系
7. TEXWorks
8. TEXShop
9. Texmaker
10. Lyx
11. 特になし
12. その他

という 12 項目から選択させた。その結果、Emacs 系という回答がもっとも多く、次に秀丸、その他と続いた。その他として、「EmEditor」(3 名) 「gedit」「WZ EDITOR」「MIFES」「サクラエディタ」「EasyTEX」「Kile / Kate」(いずれも 1 名ずつ) と多彩な回答が得られた。いずれのエディタにおいても、TEX 文書作成を支援するためのマクロが公式に提供または有志によって公開されている。いっぽう、GUI-Shell、TEXWorks、Lyx については利用者がいなかった。また、3 名は無回答であった。「特になし」という回答については、日常的に TEX をあまり利用していないか、Windows の「メモ帳」など、システム付属のテキストエディタを利用しているのではないかと考えられる。調査の結果を表 7 と図 7 に示す。また、複数のプラットフォーム (OS) にユーザが分布している Emacs 系と vi 系について、前節の OS の調査結果と合わせた結果を表 8 と図 8 に示す。

参加者の TEX 環境に関する調査から、非常に多彩な環境で TEX が利用されていることがわかった。もっとも使われている OS は Windows であるものの、一般的なシェアの分布[*8]とは異なり、

[*8] 例えば Net Application 社によるシェア調査 (http://marketshare.hitslink.com/) では 2009 年 9 月 10 日時点で Windows が 93% を占めている。

表 7　利用しているエディタ / 統合環境

	無回答	WinShell	秀丸	xyzzy	GUI-Shell	Emacs 系	vi 系
人数	3	4	17	2	0	32	5
割合	3.8%	5.1%	21.5%	2.5%	0%	40.5%	6.3%

	TEXWorks	TEXShop	Texmaker	Lyx	特になし	その他
人数	0	2	1	0	4	9
割合	0%	2.5%	1.3%	0%	5.1%	11.4%

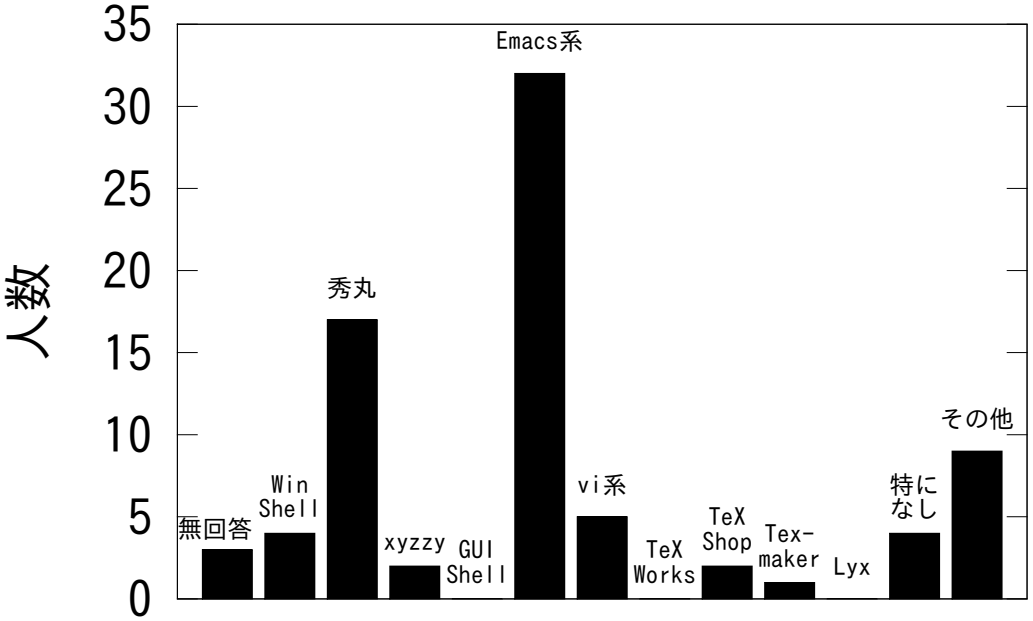

図 7　利用しているエディタ / 統合環境

Mac OS や Linux も相当数利用されている。TEX ディストリビューションについては、Windows ユーザの約 89% 以上[*9]は W32TEX を利用しているものの、その他の環境ではさまざまなディストリビューションを利用者が選択していることがわかる。また、エディタについては Windows (Meadow, NTEmacs 等)、Mac OS (Carbon Emacs 等)、Linux とさまざまな環境で利用できる Emacs 系がもっとも利用されているものの、「その他」として挙がった回答の多さからも、利用者が自分に合ったエディタ / 統合環境を選択して利用していることがわかる。また、(異論はあるかもしれないが) 初心者向けの統合環境として「定番」であると思われる WinShell や、TEXShop の利

[*9] 「わからない」という回答の中に「Windows PC に『美文書』付属の CD-ROM からインストールした」というものがある可能性があるため。美文書付属の CD-ROM には W32TEX が収録されている。

表 8　Emacs 系と vi 系の OS 別利用者

	Windows	Mac OS	Linux	BSD 系	その他	計
Emacs 系	7	6	15	3	1	32
vi 系	3	1	1	0	0	5

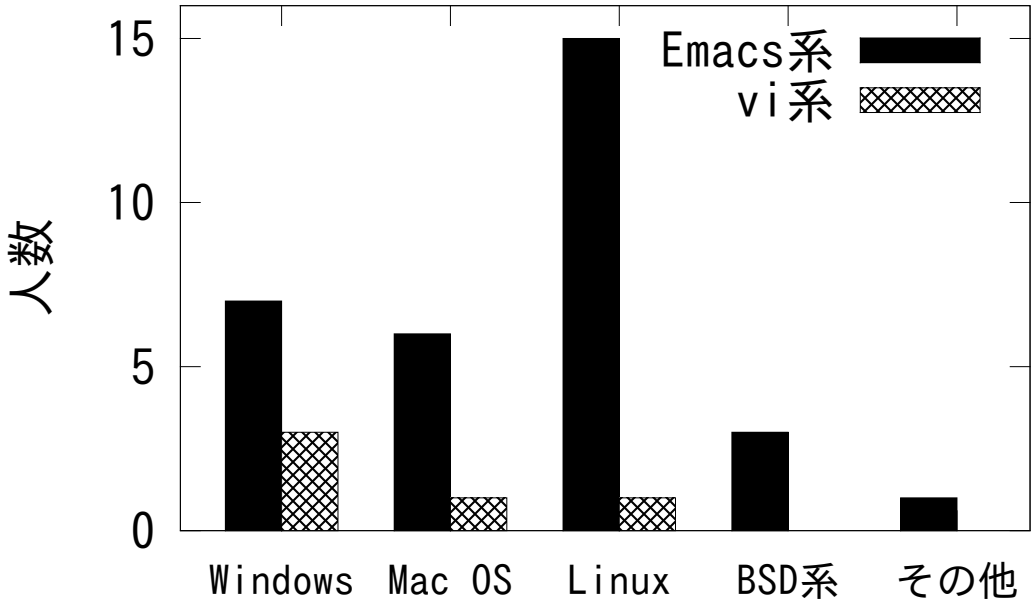

図 8　Emacs 系と vi 系の OS 別利用者

用者数が少ないことも興味深い。TEX ユーザの集いの参加者とは異なる、TEX 利用歴の浅いユーザではどのような結果になるのか、といったさらなる調査が望まれる。

ここまで、参加者の属性や TEX 環境についての調査結果を述べた。次節以降では、TEX ユーザの集い 2009 の評価や今後の希望等についての調査結果を述べる。

5　TEX ユーザの集い 2009 の評価・今後の希望

TEX ユーザの集い 2009 に関する各種の評価および、今後継続的に開催していくための希望、意見についての調査をおこなった。

5.1 TEX ユーザの集い 2009 に期待していたこと

はじめに、TEX ユーザの集い 2009 に期待していたこと、つまり参加者がどのようなイベントと捉え、どのような情報を得ようと考えていたかということを調査した。回答は

1. TEX の開発に関する最新の情報
2. 開発者・ユーザとの交流
3. ユーザ環境に関する最新の情報
4. TEX に関する入門的情報
5. 海外における TEX に関する動向
6. TEX の普及・浸透に関する議論
7. 商業分野での TEX の利用に関する情報・議論
8. その他

という 8 項目から複数選択させた。調査の結果、TEX の開発に関する最新の情報という回答がもっとも多く、次に開発者・ユーザとの交流、ユーザ環境に関する最新の情報という回答が続いた。また、「その他」として「組版技術について」「人」[*10]という回答があった。調査の結果を表 9 と図 9 に示す。

表 9　TEX ユーザの集い 2009 に期待していたこと (複数選択可能なため数値は人数ではなく回答数)

	開発情報	交流	ユーザ情報	入門情報	海外動向	普及浸透	商業利用	その他	計
回答数	47	39	36	8	7	21	20	2	180
割合	26.1%	21.7%	20.0%	4.4%	3.9%	11.7%	11.1%	1.1%	100%

5.2 今後 TEX ユーザの集いに期待すること

今度は、次回以降の TEX ユーザの集いにどのようなこと、情報を期待するかということについて調査した。調査項目は前節のものに加え、他の OSS 関連のイベントでおこなわれているような事柄を加えた以下の 13 項目であった。

1. TEX の開発に関する最新の情報
2. 開発者・ユーザとの交流
3. ユーザ環境に関する最新の情報
4. TEX に関する入門的情報
5. 海外における TEX に関する動向
6. TEX の普及・浸透に関する議論
7. 商業分野での TEX の利用に関する情報・議論
8. パネルセッションなど討論型企画
9. ワークショップなど入門・参加型企画
10. 動画中継、Twitter 等によるレポートなど、インターネットを利用した情報提供
11. 発表論文集・報告書の発行
12. 他地域での開催
13. その他

[*10] 編注: TEX に関わる人物の紹介か。

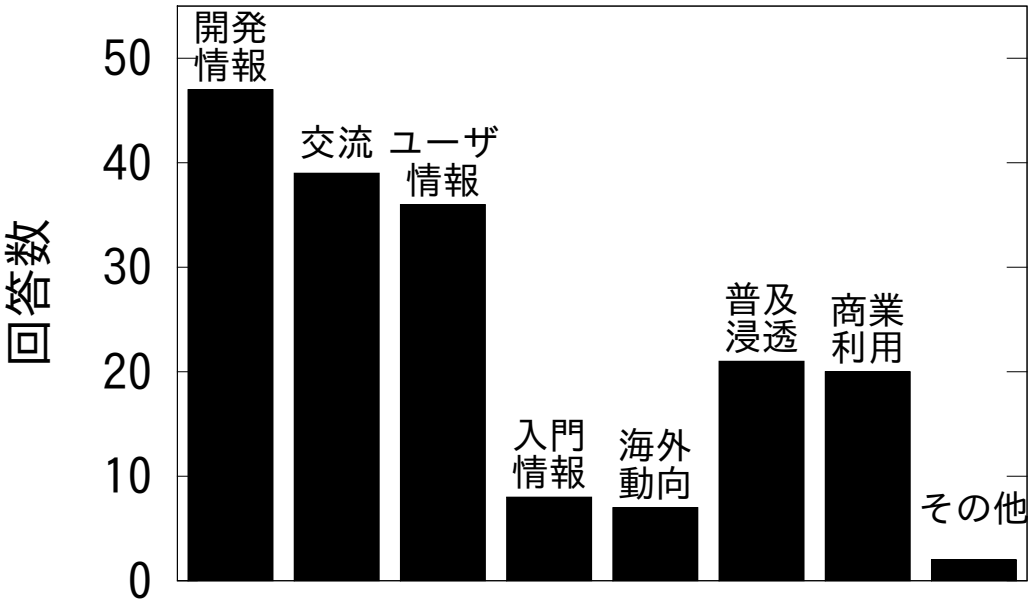

図 9　TEX ユーザの集い 2009 に期待していたこと (複数選択可能なため数値は人数ではなく回答数)

調査の結果、TEX の開発に関する最新の情報という回答がもっとも多く、次に開発者・ユーザとの交流、ユーザ環境に関する最新の情報が同数で続いた。また、前節の結果と比較して、海外における TEX に関する動向、商業分野での TEX の利用に関する情報・議論という回答も増加しており、次回以降の集いでは、そのような点を意識した企画運営が必要であると考えられる。また、「その他」として「TEX 関連書籍の展示・販売」「組版技術とその実現」「人」という回答があった。調査の結果を表 10 と図 10 に示す。

表 10　今後 TEX ユーザの集いに期待すること (複数選択可能なため数値は人数ではなく回答数)

	開発情報	交流	ユーザ情報	入門情報	海外動向	普及浸透	商業利用
回答数	45	35	35	7	16	19	25
割合	18.7%	14.5%	14.5%	2.9%	6.6%	7.9%	10.4%
	討論	入門参加	ネット	論文集	他地域	その他	計
回答数	12	13	11	16	4	3	241
割合	5.0%	5.4%	4.6%	6.6%	1.7%	1.2%	100%

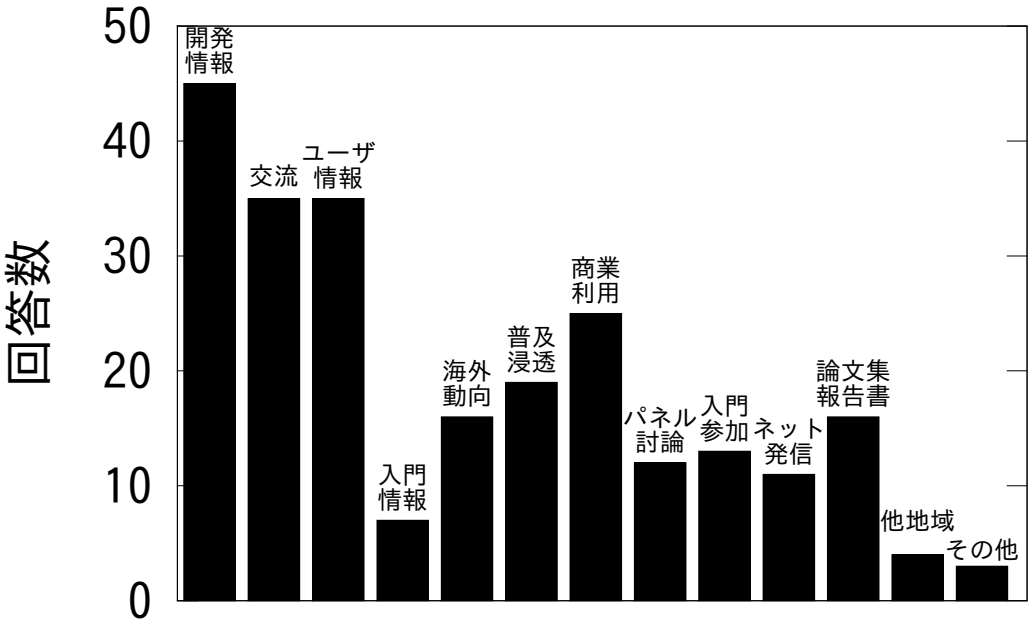

図 10　今後 TEX ユーザの集いに期待すること (複数選択可能なため数値は人数ではなく回答数)

5.3　TEX ユーザの集い 2009 開催 PR について

TEX ユーザの集い 2009 の開催について、実行委員会ではおもに TEX Wiki 上で各種の告知をおこなった。また、技術評論社 Web サイトには吉永徹美氏による事前レポート[*11] が掲載された。加えて、ブログやソーシャルブックマーク (SBM) など各種の Web サイトを通じて開催を知った人もいると思われる。そこで、事前の PR がどの程度浸透していたかについて調査した。まず、参加者に集いが開催されることをどのような経緯で知ったか調査した。

1. TEX Wiki (TEX Q & A など)
2. 技術評論社のレポート
3. ソーシャルブックマーク
4. その他の Web サイト
5. ML･SNS･グループウェア等での告知
6. 知人の紹介
7. その他

上記の 7 項目から当てはまるものを複数選択させた。調査の結果、TEX Wiki (TEX Q & A など) という回答がもっとも多く、次に知人の紹介という回答が続いた。また、「その他の Web サイト」として、「奥村先生のブログ」(4 名) という回答があった。調査の結果を表 11 と図 11 に示す。

次に、参加者にとって今回の集いに関する事前告知は充分であったと感じるかどうか問うた。

1. 思う

[*11] http://gihyo.jp/news/report/2009/08/2001

表 11　TEX ユーザの集い 2009 の開催をどのようにして知ったか (複数選択可能なため数値は人数ではなく回答数)

	TEXWiki	技評レポート	SBM	他 Web	SNS 等	知人	その他	計
回答数	44	3	1	9	7	21	1	86
割合	51.2%	3.5%	1.2%	10.5%	8.1%	24.4%	1.2%	100%

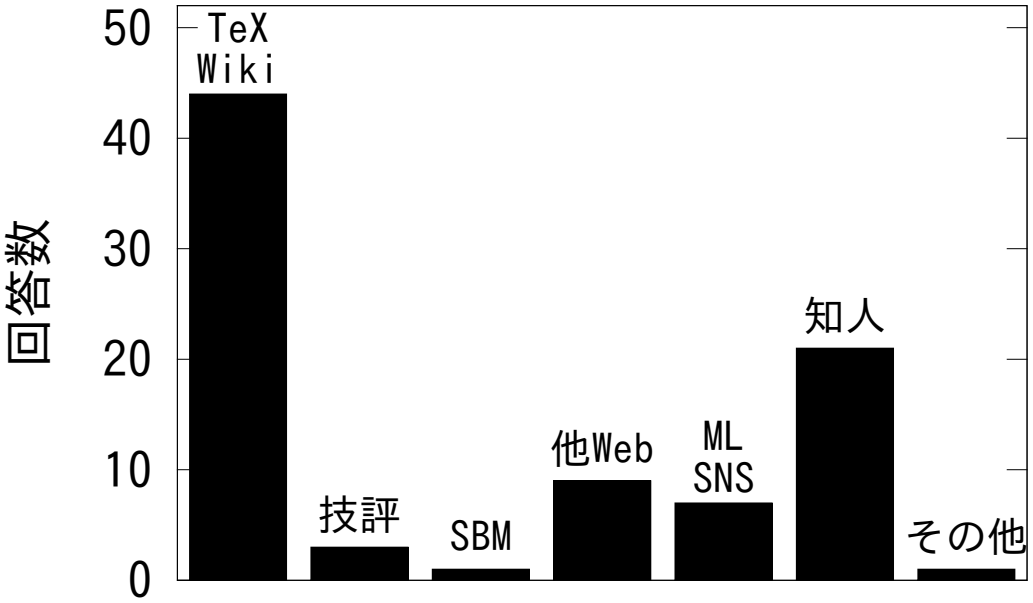

図 11　TEX ユーザの集い 2009 の開催をどのようにして知ったか (複数選択可能なため数値は人数ではなく回答数)

2. どちらともいえない
3. 思わない

という 3 項目の中から当てはまると思うものを選択させた。調査の結果、充分 (思う) と不充分 (思わない) という回答がほぼ同数で、人によって受け取りかたが大きく異なるということがわかった。今後、より効果的な PR 手段について検討する必要があると考えられる。なお、4 名は無回答であった。調査の結果を表 12 と図 12 に示す。

5.4　次回以降の参加意思、発表意思

次回以降 TEX ユーザの集いが開催された際に、ふたたび参加したいと思うか、また、自分が発表者として講演したいかという意思を調査した。まず、次回以降、TEX ユーザの集いにまた参加し

表 12　事前の告知は充分であったと思うか

	無回答	充分	どちらとも いえない	不充分
人数	4	33	7	35
割合	5.1%	41.8%	8.9%	44.3%

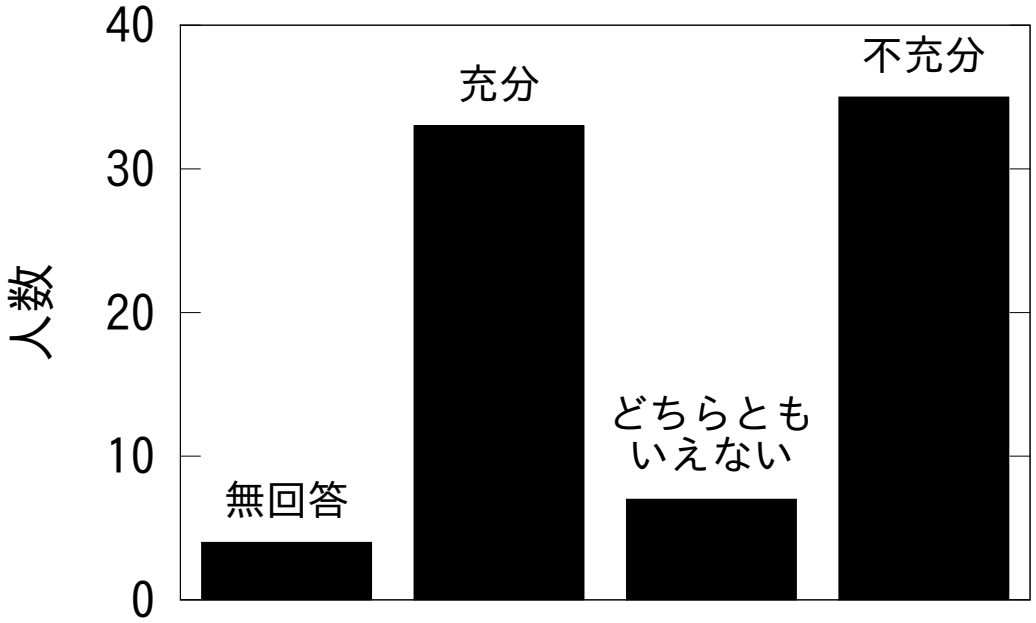

図 12　事前の告知は充分であったと思うか

たいですか、という問いについて

1. 参加したい
2. どちらともいえない
3. 参加したくない

という 3 項目から選択させた。調査の結果、参加したいという回答が大多数を占め、参加したくないという回答者はいなかった。なお、3 名は無回答であった。調査の結果を表 13 と図 13 に示す。

この結果から、参加者には TEX ユーザの集い 2009 にある程度 (あるいはかなり) 満足してもらえたのではないかと考えられる。次回以降も、次も参加したいとおもわせるような企画運営を続けることが重要であろう。次に、次回以降の集いにおいて、発表者として講演したいという意思があるか調査した。

1. 発表したい

表 13　次回以降 TEX ユーザの集いに参加したいか

	無回答	参加したい	どちらとも いえない	参加したくない
人数	3	68	8	0
割合	3.8%	86.1%	10.1%	0%

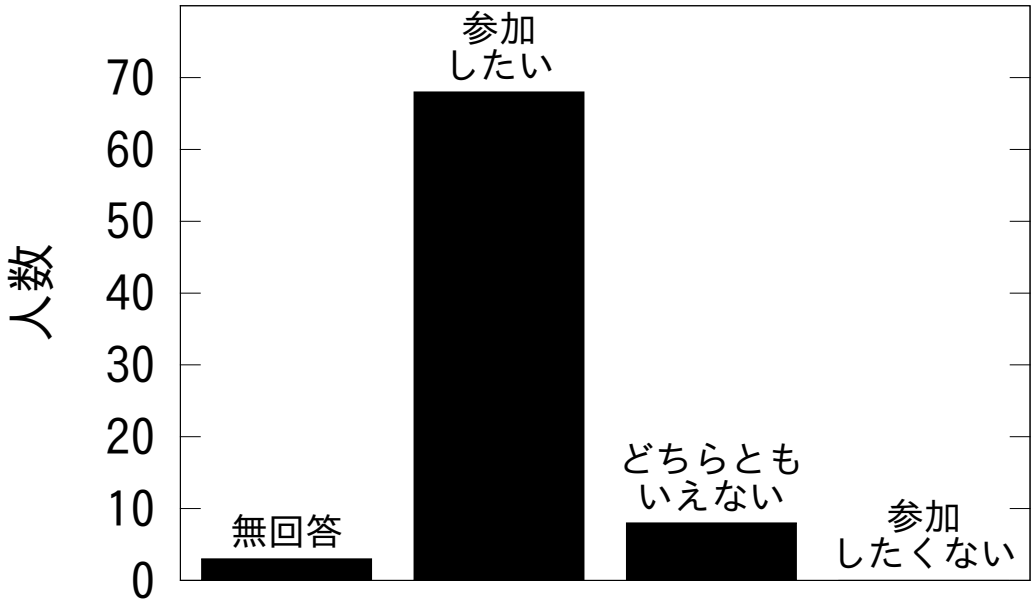

図 13　次回以降 TEX ユーザの集いに参加したいか

2. どちらともいえない
3. 発表したくない

という 3 項目から当てはまるものを選択させた。調査の結果、どちらともいえないという回答が多くを占めた。これは、現段階では次回以降の集いがどのようなスタンスで開催されるか明らかではないためではないかと考えられる。開催内容が明確化してくれば、人数は変動するものとおもわれる。なお、4 名は無回答であった。調査の結果を表 14 と図 14 に示す。

5.5　今後の TEX ユーザの集いで興味のある分野、人、ソフトウェア

次回以降、TEX ユーザの集いで発表してほしい分野、人、ソフトウェア等について、自由記述で回答を収集した。以下に回答を示す。なお、類似した回答についてはまとめて 1 項目とした。

- 角藤亮氏、Knuth 先生、吉永徹美さん、海外の TEX の developper の方々

表 14　次回以降 TEX ユーザの集いで発表したいか

	無回答	発表したい	どちらともいえない	発表したくない
人数	4	11	49	15
割合	5.1%	13.9%	62.0%	19.0%

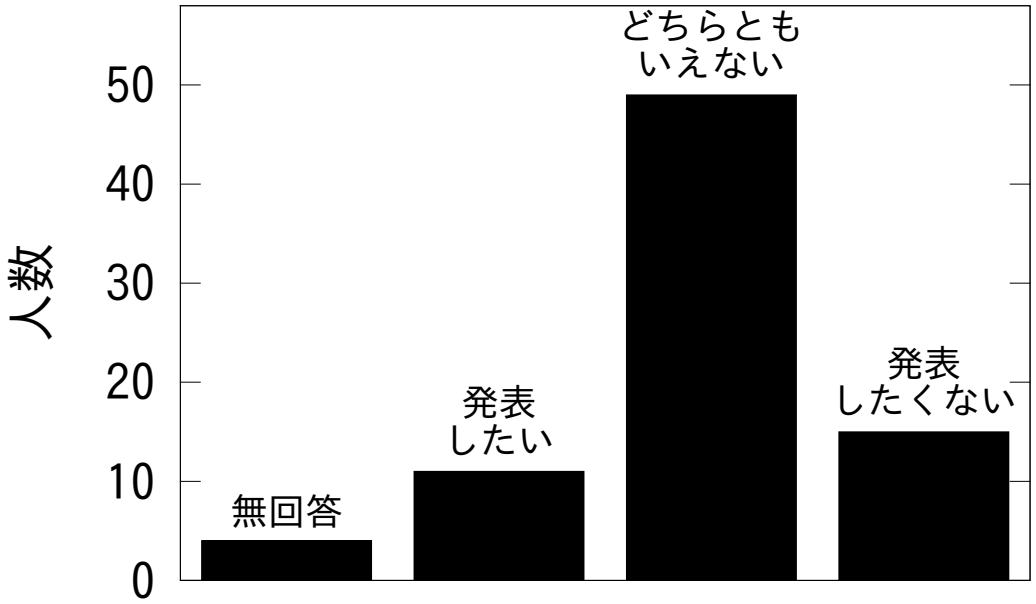

図 14　次回以降 TEX ユーザの集いで発表したいか

- TEX とはあまり関連はないが、潜在的にユーザになってくれそうなソフトウェア関連の人。Octave の Win 版をメンテしている名大の松岡先生とかは？
- upTEX, XƎTEX, LuaTEX, ConTEXt
- 印刷現場での TEX 環境の管理の手法 etc に関するノウハウ等が聞いてみたい (バージョン管理等)、商業出版に対応される印刷所の方々 (東京書籍印刷とか) のお話も
- オーム社の開発環境について (技評記事で「かなり先進的」と聞いたので)
- 商業印刷と TEX の相性、RIP メーカーの考えや最新情報
- Ubuntu や debian などディストリビューターによる設定のキモ、あるいはオーバービューなどの解説
- TEXLive と ptexlive の今後の動向
- UNICODE 環境、64bit 環境、Linux、BSD 等の環境の TEX 活用について
- XƎTEX, ConTEXt, LuaTEX on LAMP, TEX と Web の連携について

- CUPS を用いた Distiller サーバ
- Adobe (Illustrator, Acrobat, Photoshop)、DTP 関連の分野
- TEX と、他の組版システムの使い分けについて面白い試みをしている人を取り上げていただけると嬉しい (今回の町野さんの話は興味深く聞けました)
- 日本語組版技術の標準化の動向について (最近では JIS X4051 の概要を W3C のテクニカルノートにしたやつとか)、他言語についても、それらの TEX による実現
- 多言語処理
- 人文系の話題がもう少し増えないか？
- 「教育の中の TEX」についてはもっと知りたいところです
- プレゼンテーション用クラス、スタイルファイル (beamer, powerdot など)
- 科研費マクロ
- エディタ、記述環境について (Vim との連携)、Lyx のような GUI システムについて
- Word2TEX のようなツールの将来性、今後どう TEX ↔ Word の相互変換に期待できるか
- TEX on USB (持ち運びできる TEX)

5.6 TEX ユーザの集いの企画・運営に関する興味

TEX ユーザの集い 2009 では、2008 年におこなわれた The Asian TEXConference 2008 に参加したメンバーを中心に実行委員会を組織したが、実行委員会としては、より多くの TEX に興味を持つ人が TEX ユーザの集いの企画・運営に参加してくださることを強く希望している。特に、若い世代の TEX ユーザの積極的な関与が期待される。そこで、参加者を対象に、次回以降の TEX ユーザの集いの企画・運営に興味があるかどうか調査した。

1. 興味がある
2. 興味がない
3. インターネットでの活動なら
4. 現場での手伝いなら

という 4 項目の中から当てはまるものを選択させた。調査の結果、興味あり、ネットでなら、現場の手伝いならという回答を合わせて 41 人の方が興味を持ってくださっていることがわかった。次回以降についてはまだ何も決まっていないが、ぜひご協力をいただければ幸いである。なお、15 名は無回答であった。調査の結果を表 15 と図 15 に示す。

表 15　TEX ユーザの集いの企画・運営に興味があるか

	無回答	興味がある	興味がない	ネット	現場
人数	15	17	23	20	4
割合	19.0%	21.5%	29.1%	25.3%	5.1%

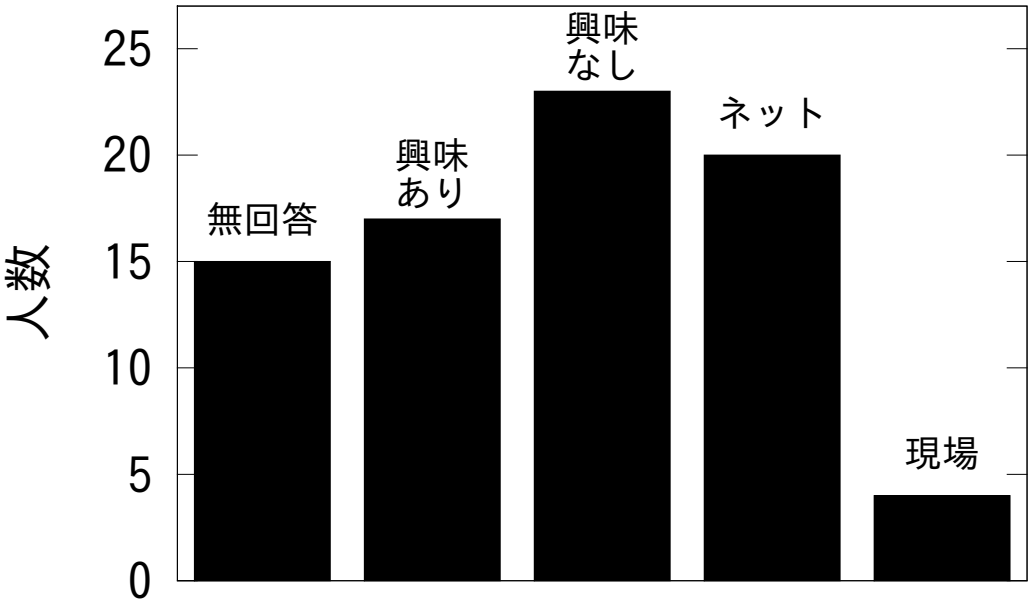

図 15　TEX ユーザの集いの企画・運営に興味があるか

6　TEX ユーザの集い 2009 に関する意見・感想

最後に、TEX ユーザの集い 2009 に関する意見・感想を自由記述で収集した。ここではそのうち、謝意を表していただいた部分を除き、できるだけ原文のまま順不同で列挙する。

- 仕事で多言語の組版を行う時があるので、とても参考になりました
- 自宅の PC に Linux を入れようと思っていましたが、なかなか実行できずにいました。Vine Linux に挑戦してみようと思います。来年位には愛を語れるように
- Unicode 対応や本家 TEX との関係など不安定な部分がまだあると感じた。また自然科学以外の分野での TEX の使用が印象深かった
- 今回はしきり直しの #1 TEXconference ということもあり、どちらかといいますと、開発向けな内容が多かったと思います。発表だけではなく、展示ブースや TEX を用いた本の販売、TEX 関連ソフトウェアの即売などが別の近くの会場 (部屋) で平行していれば、より TEX Conf. が大きな Conf. になると感じています。OSS カンファレンスなど参考にできると思われます。最後に一言: TEX 愛のシャワーをたくさんあびました
- 最近の動向など、大変有益な話題、内容で、ここで拝聴したことを是非今後活かしていきたいと思います。このような種々の立場から TEX に関わる人の交流の場が継続的にもたれることを強く希望します。1 点、会場が少し寒かったような気がします。too cold!
- 一人あたりの発表時間が短いと感じた。プログラム編成は複雑になるが、10〜30 分の範囲

で柔軟に割り振ってみるのも一考に値するかと思う

- 今回は久しぶりの会で、多くの新しい発表が集まりましたが、今後定期的に集うに値する目的があるかが鍵だと思います。新しい情報を交換する以外を目的とするのもありかと思います (具体的に何だろう??)
- 皆様の事例をうかがい、いい刺激となりました
- 青ペンの記入で大丈夫でしたでしょうか (編注: 大丈夫でした)
- 一般ユーザ向けに、会場周辺に事前にもっと告知 (ポスターなど) があってもよいのではないかと思った
- 会場が LAN と電源完備でよかった
- 8 月の最後の土曜はイベントが重なりやすいらしく、今日の午後はもじもじカフェ (江戸文字特集)、印刷博物館の講演会 (「活字印刷の文化史」)、出版 UD (ユニバーサルデザイン) 研究会と重なりまくってしまいました。次の機会には 8 月第 3 週あたりにしていただけると幸いです
- 普段ネット上でしかお名前を拝見しない方々と直接お会いできたことはよかったと考えています。普段交流のない分野の方々の発表を聞くことができ勉強になりました
- TEX 界の有名人の方々に一度お会いしたいと思いました
- あわただしかったですが、とても面白かったです
- 複数日程化による各講演時間延長
- TEX に関する情報は、現状、書籍またはインターネットによるものが殆どです。前者は速報性に欠け、後者は (多くが) 信頼性に欠けます。このようなコミュニケーションの場は大変有難いと思います。速報性と信頼性もありますので。今後も定期的に続けて頂けるととても助かります
- 発表時間が短いようにも思いました。今後、ジャンルに分けて、2 日間の開催など良いと思います。ジャンルもユーザー、開発者、パッケージ開発者、商業使用者などに分けても人は集まると思います。今後もぜひ続けてください。毎回参加致します
- これからもこのような機会が開かれることを期待しています。TEX のために何が出来るのかいつも考えていましたが、このような会に参加することも個人レベルで出来ることだと思っています
- 内容がとりどりでよかった。普通に使っているだけだと現状のものしか見ないので、最近の情勢 (特に Unicode 関連) を聞けたのは大きい収穫
- こうした会 (TEX の発展や普及にずっとかかわってこられた、現在中心に動いておられる人たちの話がきける機会) に参加するのははじめてで、正直、発表内容の半分も理解できてはおりませんが、出版社で仕事をしていて TEX は日常的にお世話になっており、そうした「歴史上の人々」のお顔を拝見でき、これまでの流れ、現在の状況 etc を直接うかがえただけでもうれしく思います。TEX 関連書籍の販売まではナカナカ大変でしょうが、「こういうものが TEX で作られている」or「これまで、こういう本が出されてきた」という本の展示などもあったらよいかと思いました

- 予稿に URI を書いている人が少ない。後でサイトを見に行きづらい
- 久しぶりの方にたくさんあえました
- とても勉強になりました
- 有名な人を見ることができてうれしかったです。懇親会参加券の裏を名札にするアイデアは斬新だと思いました
- 未熟なもので理解できない内容も多かったですが、大変興味深く聞かせていただきました
- 会場はきれいでとてもよいが、ケータイ類の電波の入りがよい場所だとよりありがたい
- 国内でひさかたぶりに開催された TEX 会議開催の意義は大きいと思います
- 内容が盛りだくさんで、面白かった
- Vine Linux の人の話が聞けてよかった。会場は無線 LAN が使えればよかった
- 日本の TEX の世界はユーザ、スクリプタ (スタイルファイル等作成者)、プログラマ (バイナリ開発者) を有機的に組織化することが肝要だと思います。ユーザへのワークショップや、スクリプタの作成分の集積、意見交換の場の提供、プログラマの情報交換、養成ができるようになれば、もっともっと発展すると思います。今回の集りは有益でしたし、奥村さんのサイト等が機能しているのは素晴らしいと思いますが、もう一歩踏み出した取り組みが欲しいところです。日本の TEX の開発は個人プレーが多いと思いますが。これがチームになれば……どうでしょうか
- 有名な本の著者に会えることは刺激的だ
- CD-R でもかまわないので、予稿集らしいものがあるとよいと思います (国会図書館やリポジトリに置いて、普及に用いる)
- 一般ユーザですが、大変に勉強になりました
- 終日は長い気がします。遠方から来る方も多いので、1 日で盛りだくさんの内容のため止むをえないのかもしれませんが
- 最前線で活躍しているみなさんのお話を直接聞くことができ大変勉強になりました。ただこれだけの発表数になると、質疑応答の時間も十分とれないと思います。次回以降はもっと発表が増えることも予想されますので、どうすれば効率的かご検討ください

7 おわりに

繰り返しになるが、TEX ユーザの集い 2009 に参加していただき、またアンケートに真摯に回答していただき、たいへん感謝している。今回の調査結果、またお書きいただいたご意見・ご感想を参考に、次回以降さらに有意義な TEX ユーザの集いが開催できるよう、実行委員会として努力していくことをお約束したい。

また、TEX あるいは他のオープンソースコミュニティにおいて、本報告書がよりよい開発やコミュニティ運営のための参考資料となれば幸いである。

TEX ユーザの集い 2009 実行委員会

大会委員長: 大島利雄 (東京大学大学院数理科学研究科)
実行委員長: 奥村晴彦 (三重大学教育学部)
実行委員: 黒木裕介
杉村由花
鈴木秀幸 (東京大学生産技術研究所)
田中健太 (東京工業大学教育工学開発センター)
土村展之 (関西学院大学理工学部)

TEX ユーザの集い 2009 懇親会の様子